

ICT活用授業実践報告書

【 H24年度3年目研修 】

実施学年	3年	実施教科 (科目)	技術	実施日	H24. 11. 12
題材名	あんしんライト				
本時の内容 (項目)	電子部品をはんだづけしよう				
本時の目標	取り付ける電子部品の性質を理解し、正しい手順で美しいはんだづけをするコツを見つけることができる。				
授業場所	金工室	ICT活用時の 授業形態	斉学習・個別学習・グループ学習		
ICT活用場面	導入・展開・まとめ・他()	ICTの主な 活用者	教師・生徒		
活用するICT 機器	電子黒板 投影するカメラ				
ICTを活用する 目的・ねらい・予想される 効果	電子部品は非常に小さいため、大画面に投影することで全員の理解を図る。また、はんだづけを示範する際、手元の細かな作業を大画面で共有することで、全員が作業の様子を把握できる。				
児童生徒の情報活用能力を 育てる指導場面・指導内容					
利用するコン テンツ名・サ イト等					
参考にしたサ イト・文献 等					
事前の準備	電子黒板の設置。投影するカメラのピントや明るさの調整・セッティング。また、その動作確認。				

指導計画（授業の展開）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本時とりつける電子部品の説明をする。 電子黒板で電子部品を拡大して投影する。 2. はんだづけの手順と、安全面について確認をする。 3. 基板の取り付け場所の確認と、はんだづけの師範をする。 電子黒板で投影する。このとき、美しいはんだづけの形を確認し、イメージをもたせる。 4. はんだづけをする。 5. うまくいかない点の交流をする。 6. どうしたらうまくいったかの交流をする。 7. 再びはんだづけをする。 8. 片付けをする。 	（※情報モラルの指導内容）
ICTを活用した授業時の教師側（指導上）の留意点	カメラの角度や、明るさを調整し、どの生徒からでも見やすいようにしておく。教師自身が作業に集中しすぎて、電子部品や作業の様子が、画面からフェードアウトしないように気を配る。	
ICTを活用した授業時の児童生徒の反応	電子部品の実物を生徒に提示したあとに、大画面に投影することで、より電子部品への注目度が高まった。また、「おお～」という完成が上がった。	
ICTを活用した授業後の評価（実践の手応え）	<p>教卓付近に生徒を集めての師範では、どうしてもはんだづけの様子が見にくくなる生徒がいる。大画面に投影することにより、どの生徒も手元の様子を見ることができ、イメージをつかみやすい。</p> <p>また、電子部品の説明をプリントだけでなく、画面に投影することにより、視点を絞って説明することができるので、共通理解を図りやすい。</p>	
今後の課題	生徒がカメラを動かし、電子部品や作業の様子が斜めに投影されたりと、カメラの角度の調節がうまくいかないときがあった。また、カメラの画像の質があまりよくないため、細かい文字や印が分かりにくいものがあった。	

※情報モラルを指導したときは、その指導事項及び指導内容を記入する。